

項目名	Y字帯ベルトを使用する。ベットサイドにマットを敷く。
表題	入所時より車椅子離床時Y字帯ベルト使用。ベットより降りる
施設名	おくらの里（介護老人福祉施設）

1 利用者の状況

年齢 75 歳 男性 要介護度 5 痴呆性老人の日常生活自立度 M

【病名（既往症）及び病状】

脳血管性痴呆、糖尿病、脳梗塞後遺症入院中よりつなぎ服着用及び車椅子離床時Y字帯ベルト使用

2 施設内の生活における現状や課題

【身体的な状況】

- 左片麻痺があるが、右手の力がかなり強く、ベット柵を外すなどの行動が見られる。日中はベットの上、車椅子上でも絶えず動いている。

【痴呆の状況】

- 言語がはっきりせず、他者とのコミュニケーションが取れない。大勢の中にいると大声を出し、落ち着きがない。
- 車椅子離床中わざとずり落ちようとする。

3 拘束に至った経過や原因と考えられるもの

妻の病死をきっかけに、飲酒と睡眠を繰り返す生活を続け、糖尿病を指摘される。その後、不眠、徘徊を繰り返しては暴れるようになり、歩行困難後は車椅子を使用するものの、ゴリゴリと落ち着きがないため、入院中はY字帯ベルトを使用する。

4 ケアカンファレンスでの意見や協議内容

- つなぎ服
ユニットにおける職員配置を考慮し、施設入所と同時に中止する。
- Y字帯ベルト
一時的最小限での配慮で拘束・拘束記録（様々な車椅子を使用してもずり落ちが改善されないため。） 家族へ現状説明後、拘束同意書を作成

5 拘束廃止に取り組んだ過程や取り組み状況

車椅子離床時のずり落ちがひどく、安全面を優先させると離床時間が短くなってしまふ。そのため、様々な車椅子、クッション等を使用するが、右手の力が強く、身体を起こし、突っ張るため、ずり落ちが改善されない。

食事時は、他の入所者と同じテーブルで食べると落ち着かないため、小さめのテーブルを使用し、食事をする。

食事以外の離床時（レクリエーション）等については、身体拘束委員会で検討し、離床促進のために最小限でY字帯ベルトを使用する。 ベットから降りる件については、臥床中必ずベットサイドにマットレスを敷き、見守りを強化して安全確保に努める。

6 改善の成果

見守りを強化し、声かけをしながらレクリエーション参加時のみY字帯ベルトを使用しているが、少しではあるが、ずり落ちが減少してきている。

再度カンファレンスを開催し、Y字帯ベルトを中止する方向で検討していく予定。また、本人にあった車椅子の使用を検討中

7 担当職員の感想、意見

拘束廃止委員会の設置により、それぞれの職種の職員が拘束をしないケアについて考えるようになってきている。また、家族に対しても生活の場での拘束はしないと説明できる

ようになったが、一人一人に関わるケアの内容の大切さを痛感する。
今後も各職種間の連携をとり、拘束廃止に取り組んでいきたい。